

# OPEN SPACE 2011

## オープン・スペース 2011

岩井俊雄 / 重田佑介 / 渋谷慶一郎 + evala / 鈴木康広 / 津島岳央 / 寺田尚樹 + 野老朝雄 + 長岡勉 + 鳴川肇 / グレゴリー・バーサミアン / デイヴィッド・ボウエン / 真鍋大度 + 石橋素 / IAMAS サーフェイス・インターフェイス・デザイン・プロジェクト

会期 | 2011年10月22日[土]—2012年3月18日[日]

会場 | NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] ギャラリーBほか

開館時間=午前11時—午後6時

休館日=月曜日(月曜が祝日の場合翌日)、年末年始(12/26-1/4)、保守点検日(2/12)

入場無料

主催=NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

## EXHIBITION

# MIKAMI SEIKO Desire of Codes

## 三上晴子 欲望のコード

会期 | 2011年10月22日[土]—12月18日[日]

会場 | NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] ギャラリーA

開館時間=午前11時—午後6時

休館日=月曜日

入場料=一般・大学生500(400)円 / 高校生以下無料 ※()内は15名様以上の団体料金

主催=NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

協力=マイクロビジョン、多摩美術大学 情報芸術コース

特別協力=山口情報芸術センター[YCAM]

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階

京王新線初台駅東口から徒歩2分

☎ 0120-144199

E-mail: [query@ntticc.or.jp](mailto:query@ntticc.or.jp)

URL: <http://www.ntticc.or.jp/>



INTERCOMMUNICATION CENTER

## PREVIEW

## プレス内覧会

2011年

10月21日[金]

午後5時—8時

お問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

広報担当: 臼倉利人

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

E-mail: [query@ntticc.or.jp](mailto:query@ntticc.or.jp)

URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

# OPEN SPACE 2011

## オープン・スペース 2011

オープン・スペースは、ギャラリー、ミニ・シアター、映像アーカイヴ「HIVE」などの、ICCがもつ機能を総合したスペースです。2006年の開始以降、年度ごとに展示内容を変えながら入場無料で公開しています。

国内外の著名アーティストや新進アーティストによるメディア・アート作品、現在進行中のプロジェクトを展示するほか、社会とメディア、アートの関わりの変遷をまとめたテーマ展示コーナーも展開します。作品にとどまらず、それらに付随する社会的、文化的、思想的背景などを作家のインタビュー映像や資料、テキストによって多角的に解説することで、ICCの活動理念である「メディア・テクノロジーと芸術文化」の関係をわかりやすく紹介し、先進的な技術を用いた芸術表現によるコミュニケーション文化の可能性を提示する開かれた場として機能することを目指しています。

### 出品作品

岩井俊雄 IWAI Toshio  
《マシュマロスコープ》2002年

渋谷慶一郎+evala SHIBUYA Keiichiro+evala  
《for maria anechoic room version》2010年

重田佑介 SHIGETA Yusuke  
《がそのもり》(新作)

鈴木康広 SUZUKI Yasuhiro  
《自針と分針》2009年  
システム制作: 富樫政徳(東京大学相澤研究室)  
Courtesy: Digital Public Art Project

津島岳央 TSUSHIMA Takahiro  
《視界のデフラグ》2008年  
《石の見た夢》2010年

寺田尚樹+野老朝雄+長岡勉+鳴川肇  
TERADA Naoki+TOKOLO Asao+NAGAOKA Ben+NARUKAWA Hajime  
「トランス・スケール 02」2011年

グレゴリー・バーサミアン Gregory BARSAMIAN  
《ジャグラー》1997年

デイヴィッド・ボウエン David BOWEN  
《ソナー・ドロ잉・デヴァイス》2003年  
《フォトリピック・ドロ잉・デヴァイス》2003年  
《テレプレゼント・ウォーター》2011年

石橋素+真鍋大度 MANABE Daito+ISHIBASHI Motoi  
「オープン・スペース 2011」のための新作

IAMAS サーフェイス・インターフェイス・デザイン・プロジェクト  
IAMAS Surface Interface Design Project

01 | 津島岳央《石の見た夢》2010

02 | 鳴川肇《平行カメラ》2011(参考図版)

※ICCキッズ・プログラム 2011  
トランス・スケール《ものさし》をかえてみよう」展示風景  
撮影:木奥恵三

03 | 渋谷慶一郎+evala  
《for maria anechoic room version》2010  
撮影:新津保建秀

04 | 重田佑介《ロウビジョン》2009(参考図版)

撮影:木奥恵三

05 | やくしまるえつこ《ルル》MVより  
監督:真鍋大度 ロボットアーム制御:石橋素

06 | IAMAS サーフェイス・インターフェイス・  
デザイン・プロジェクト

07 | グレゴリー・バーサミアン《ジャグラー》1997 撮影:大高隆

08 | 鈴木康広《自針と分針》2009

09 | 岩井俊雄《マシュマロスコープ》2002  
撮影:木奥恵三

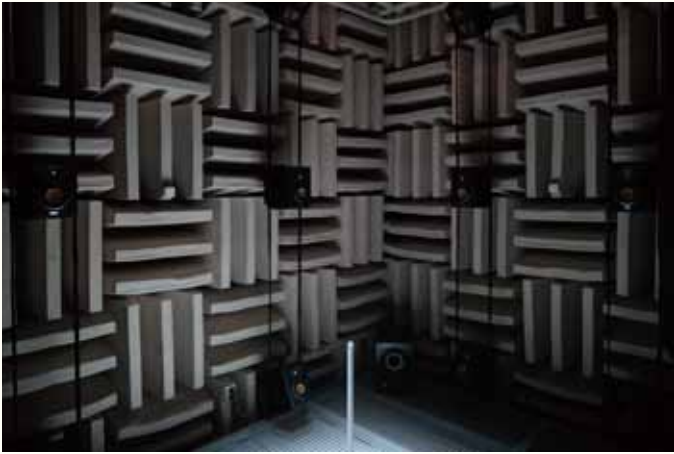
10 | デイヴィッド・ボウエン  
《テレプレゼント・ウォーター》2011



01



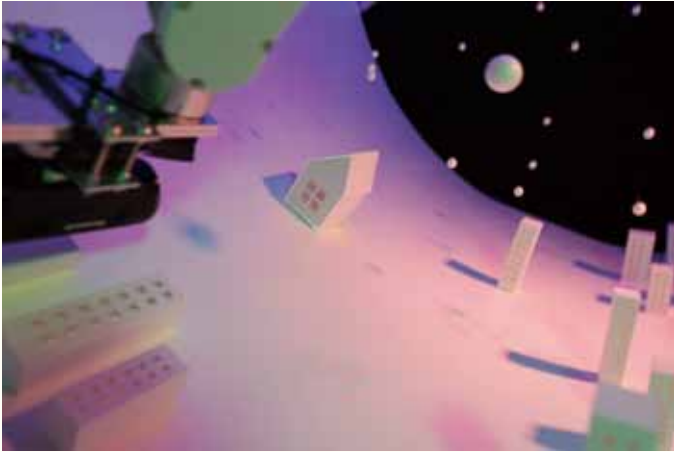
02



03



04



05



06



07



08



09



10

## テーマ展示

### アート&コミュニケーション・テクノロジーの50年

今年生誕100周年を迎えたマーシャル・マクルーハンは、中枢神経を外在化した最初のテクノロジーとして「電信」(Telegraph)を挙げています。コンピュータ・ネットワークが全世界をつなげている現在は、マクルーハンのいう「電信の発明以来、わたしたちは人間の脳と神経を地球全体に拡張させてきた」時代であるといえるでしょう。

このテーマ展示は、テキストや図版、ICCが収蔵するビデオ・アート作品とインタビューなどの映像などによって構成されます。メディア・テクノロジーと社会、さらにそのインターフェイスとして存在してきたメディア・アートの関わりをたどります。

## 新進アーティスト紹介コーナー

### エマージェンシーズ! emergencies!

「エマージェンシーズ」は、今後期待される新進アーティストやクリエイターの最新の作品やプロジェクトなどを紹介するコーナーです。(年間2回展示予定)

#### エマージェンシーズ! 017

江島和臣《ストリングス・フォー・ハーモニー》2011年  
展示期間:2011年10月22日[土]—12月18日[日]



## アーカイヴ

### HIVE

ICCの映像アーカイヴ「HIVE」(ハイヴ)では、ICCの所蔵するビデオ・アート作品、アーティスト、科学者、批評家などのインタビュー映像、1997年の開館以後開催されてきたICCの数多くの活動の映像記録をデジタル化し、コンピュータ端末から視聴することができます。また、上記のコンテンツのうち一部はHIVEのウェブサイト(<http://hive.nticc.or.jp/>)からも視聴可能です。ウェブ版の映像には原則としてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスが付与され、非営利目的での創造的利用を可能にすることで、文化資源としてのICCの活動記録をよりオープンな私たちで社会に開示することを目指しています。



HIVEコーナー 撮影:木奥恵三

## 関連イベント

### ギャラリーツアー

会期中の毎月第二土曜日開催予定

ICC学芸スタッフが「オープン・スペース 2011」の展示作品について解説します。

\*関連イベントについて、詳しくはホームページなどで最新の情報をお知らせいたします。



# MIKAMI SEIKO **Desire of Codes**

## 三上晴子 **欲望のコード**

このたび、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] では、2010年に山口情報芸術センター [YCAM] にて委嘱制作し公開された、三上晴子による大規模なインタラクティブ・インスタレーション《欲望のコード》の新バージョンを発表します。巨大な壁面には、センサーと小型カメラを搭載した90個のデバイスが設置され、天井からは、カメラとプロジェクターが搭載された6基のロボット・アームが吊られています。各装置は、昆虫がうごめくように観客の位置や動きを察知し、それに向かって動き出し、観客を監視します。会場の奥には、昆虫の複眼のような巨大円形スクリーンが位置し、それぞれのカメラの映像データは、世界各地の公共空間にある監視カメラの映像とともに独自のデータベースを構築し、過去と現在や会場と世界各地の映像が、複雑に交錯しながらスクリーンに投影されます。

三上晴子は、「情報環境と身体」をテーマに、コミュニケーション・テクノロジーとその情報生態系が生み出す相互作用の中で自身の芸術表現を行ってきたアーティストです。この作品では「現在の情報化された環境と知覚に生きるわたしたちの新たな欲望とはなにか」を問題意識として、映像、音響、データなど、さまざまなネットワーク環境からの情報を、自律的なシステムを持つコードによって再構成することで制作されています。鑑賞者に反応するように動き出す、生きたような空間／装置の中で、現在の情報技術とインタラクションの生み出す、時間／空間の変容を体験することができる作品です。《欲望のコード》は本展覧会終了後、世界各地に巡回する予定です。

**三上晴子** アーティスト。1984年から情報社会と身体をテーマとした大規模なインスタレーション作品を発表。1992年から2000年までニューヨークを拠点に主にヨーロッパとアメリカで数多くの作品を発表する。1995年からは知覚によるインターフェイスを中心としたインタラクティブ作品を発表。視線入力による作品、聴覚と身体内音による作品、触覚による三次元認識の作品、重力を第6の知覚ととらえた作品などがある。ミロ美術館、ウィーン・クンストハウス、ナント美術館、メディア・アート・チャイナ、トランスメディアール、オランダ・DEAF、アルス・エレクトロニカ、YCAM、ICCなど国内外の美術館、メディア・アート・フェスティバルに出品参加。現在、多摩美術大学教授。

## 関連展示

## 《Eye-Tracking Informatics——視線のモルフォロジー》

会期＝2011年12月9日[金]ー18日[日]

会場＝NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] シアター

休館日：月曜日

\*ご覧になる場合は、展覧会入場チケットが必要です。

1996年にキャノン・アートラボで制作発表された視覚の実験である《モレキュラー・インフォーマティクスー視線のモルフォロジー》は、96年から04年までヴァージョンアップをしながら世界各地で発表された作品です。この作品は、体験者の視線を視線入力装置によって感知し、それによって描かれる形態を、仮想の3次元空間内に生成していくイ

ンスタレーションです。「見ることそのものを見る」、「無意識と意識の連鎖」というふたつのコンセプトから、空間と身体に対応関係を再考しようとしたものです。

山口情報芸術センターでの再制作ヴァージョンを《欲望のコード》の公開とあわせて発表するものです。

## EVENT

## 関連イベント

## アーティスト・トーク

日時＝2011年12月16日[金] 午後6時より

会場＝ICC 4階 特設会場

定員＝200名(当日先着順)

入場無料

## アーティストによるギャラリーツアー

出展作家三上晴子が、作品を解説します。

日時＝2011年12月17日[土] 午後6時より

定員＝50名(当日先着順)

\*展覧会入場チケットが必要です

## 東京オペラシティアートギャラリーとの相互割引

ICC受付にて、東京オペラシティアートギャラリーで同時期に開催の企画展入場券をご呈示いただくと、本展に団体料金でご入場いただけます。また、東京オペラシティアートギャラリー企画展ご入場の際に、本展入場券をご呈示いただいた場合も、団体料金でご入場いただけます(他の割引との併用不可。ご本人のみ1回限り有効)。

## 広報に関するお問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当：白倉利人

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

E-mail: query@ntticc.or.jp

URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンした文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

## MAP

